

## 令和2年度F工房活動報告書

### 1. 学生ファシリテータの養成

#### 1-1. 学生ファシリテータ（以下、学ファシ）の人数

	学ファシ					合計
	4年次	3年次	2年次	継続	新規	
第10期	8名	13名	37名	20名	38名	58名
第11期	9名	24名	29名	25名	37名	62名

※翌年度の年次で記載

第11期学ファシは第10期学ファシと比較すると、継続学ファシの人数が増加し、全体の人数規模は微増であった。

なお、第11期学ファシ62名のうち11名の学ファシが部活動や留学などとの両立が困難となったことを理由に活動の辞退を申し出た。さらに5名は研修期間中に連絡が取れなくなるなどして登録から除外する対応を取ったため、令和3年3月末日時点で46名の登録となっている（第10期も活動期間中に9名の辞退者が出ている）。

#### 1-2. 第10期後半の活動

##### ■活動一覧

	タイトル	日程・期間	概要	分類
1	「自己発見と大学生活」 授業運営支援	令和2年 5月～8月（全15回）	「自己発見と大学生活」（以下、「自己大」）は受講生（初年次生）が「対話」を通して大学生活に対する自分なりの「方針」を持つことを目指すキャリア形成支援教育科目である。 学ファシは担当教員とともにアイスブレイク運営や大学生活に関する話題提供、グループワーク支援、受講生へのフィードバックなどを行った。	実践
2	「自己発見と大学生活」 授業運営支援に伴う 学ファシ面談	令和2年 5月18日（月）～29日（金） 6月22日（月）～7月3日（金）	「自己大」授業運営支援での各クラスの状況把握を目的とした学ファシ面談をオンラインで実施。	その他
3	オンラインdeチームビルディング	令和2年 6月17日（水）、24日（水）、7月1日（水）	ファシリテータとしての引き出しを増やすことを目的に、オンラインでできるチームビルディングを職員と学ファシ（有志）とで実践した。	実践
4	第11期学ファシ募集 プロジェクト	令和2年 6月中旬～7月中旬	第11期学ファシ募集におき、プロジェクトメンバーを募った。メンバーはチームに分かれて、学ファシ活動PR動画制作	その他

			および公式 SNS アカウントの開設・運営を行った。	
5	ふりかえりの集い	令和2年 8月7日(金)	学ファシを対象に、一年の活動をふりかえることを目的とした「学ファシふりかえりの集い」をオンラインで実施した。	研修

## ■取り組みの成果と課題

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響から、春学期は全ての科目がオンライン授業となり、学生の学内への入構も禁止されていた。そのため、学ファシ活動も全てオンラインで行ったことにより例年とは大きく活動内容を変更することとなった。

### 1) 「自己発見と大学生活」授業運営支援

オンライン授業となったことで、学ファシの授業への関わり方も大きく変化した。例年であれば前年度の3月末に2日間実施している科目の事前研修も実施できないまま、学ファシは授業運営支援を行うこととなった。また、クラスにより授業で使用するオンライン会議ツールが異なったり、実施形態もオンデマンド配信型やリアルタイム型、授業回に応じてこれらを使い分けたりなど多様であった。

授業における学ファシの役割は、担当教員と受講生の間立ちながら授業をサポートすることであるが、今年度は前述のような事情から、学ファシの授業への関わり方や振る舞いは担当するクラスにより大きく異なった。そのような状況の中ではあったが、学ファシの臨機応変な対応で授業運営支援は滞りなく実施できた。

### 2) 学ファシ面談

「自己大」授業運営支援に伴って発生するトラブルを未然に防ぐことを目的として、授業期間中に各クラス2回の面談をオンラインで実施した。学ファシに面談を義務づけたことでF工房は全クラスの状況をまんべんなく、かつ早々に把握することができ、必要な対応をとることができた。

昨年度の課題であった授業期間後半の各クラスの状況把握については、面談のタイミングを授業期間前半と後半に設定したことにより改善することができた。また、オンライン実施により時間の都合をつけやすく参加しやすかったと考えられ、各クラスとも複数のメンバーが参加して面談を行うことができた。

### 3) オンライン de チームビルディング

ファシリテータとしての引き出しを増やすことを目的に、オンラインでできるチームビルディングを職員と有志の学ファシとで実践した。実践の様子は、ホームページを通じて情報発信を行った。

参加した学ファシからは、活動を振り返って、「オンラインで皆と協力することはすごく新鮮だったので楽しかった。」「オンラインでもグループワークとして活動できることがあることがわかり、自分の引き出しが増えたと思う。」等の感想が聞かれた。

### 4) 新規学ファシ募集プロジェクト

第11期学ファシ募集におけ、プロジェクトメンバーを募った。メンバーはチームに分かれ

て、学ファシ活動 PR 動画制作および公式 SNS アカウントの開設・運営を行った。制作した動画は POST 等を通じて広く学生に公開し、学ファシ活動のイメージを伝えることでその活動に興味をもってもらう契機となり、募集活動において重要なものとなった。

## ■第 10 期の総括

第 9 期に引き続き、学ファシが「自己大」に限らない学ファシ活動全体について興味をもつこと、汎用的なファシリテーション能力を身に付けることを目指し活動の計画を立てた。しかし、「自己大」に限らない活動については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、授業がオンラインになったことも影響し、学ファシが活動しての授業支援の依頼が残念ながらなかった。

### 1-3. 第 11 期前半の活動

#### ■活動一覧

	タイトル	日程	概要	分類
1	第 11 期 新規学ファシ募集 オンラインで実施	令和 2 年 8 月 3 日 (月) ~ 8 月 26 日 (水) 9 月 7 日 (月) ~ 10 月 7 日 (水)	学ファシ活動の概要や申込み方法等について説明した動画および募集プロジェクトメンバーが制作した「先輩学ファシの声」を集めた動画をオンデマンド配信した。応募方法は書類提出からオンラインでフォームより送信する形式に変更した。	説明会 (配信)
2	継続学ファシ研修 オンラインで実施	令和 2 年 9 月 30 日 (水)	継続学ファシを対象に、研修の実施方法や注意点を共有するとともに、ファシリテータとしてステップアップすることを目指し継続学ファシとして期待する姿について共有した。	研修
3	新規学ファシ オリエンテーション オンラインで実施	令和 2 年 10 月 12 日 (月)	新規学ファシを対象に、学ファシ活動の概要や活動する上で必要なルール・注意点等を共有した。	研修
4	学ファシ研修 【必須参加/全 6 回】 オンラインで実施	令和 2 年 10 月 14 日 (水)、28 日 (水)、11 月 11 日 (水)、 25 日 (水)、12 月 2 日 (水)、9 日 (水)、23 日 (水)	第 11 期学ファシ同士が関係性を構築すること、学ファシとして活動するにあたって必要なファシリテーションスキルとマインドを習得することを目指してオンラインで実施。一部、継続学ファシが企画・運営を行った。	研修
5	学ファシ研修 【任意参加/番外編】 対面で実施	令和 2 年 10 月 30 日 (金)	「プレストと KJ 法を使って議論しよう」をテーマに対面でグループワークを実施し、運営は継続学ファシが担った。	研修
6	「自己大」事前研修 オンラインで実施	令和 3 年 1 月 20 日 (水)、27 日 (水)、 <u>2 月 3 日 (水)</u> 、	「自己大」の教育目標および学ファシの役割理解を目的に、オンデマンド配信およびリアルタイムでのオンライン・グループワーク	研修

		<p>10日(水)、17日(水)、 24日(水)、3月10日 (水)、17日(水)</p> <p>※__の日程はリアルタイム実施</p>	<p>の形式で研修を実施した。</p> <p>【研修内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ファシが授業内で運営するプログラムの準備・練習</li> <li>・クラス内の多様性への理解</li> <li>・教員との協働についてワールドカフェ方式での意見交換</li> <li>・半年の研修期間が終わり実践へ向けての意気込みを宣言</li> </ul>
--	--	--	--

### ■取り組みの成果と課題

F工房としても初めての試みとなるオンラインでの研修となったが、「オンラインでも対面と同様に、グループワークの楽しさや意義を伝えることができる」と、第11期学ファシが実感できたことは、大きな成果であったといえる。その実感は、職員も含めた全員が初体験という状況を共有し、自分たちで安心・安全の場をつくりだす経験ができたことで、より明確な手ごたえとして第11期学ファシ全員に伝わったと感じる。中でも、継続学ファシが企画・運営を担当したプログラムでは、この場がよりよいものになるにはどうすればよいか、第11期全員が自ら考え、積極的に行動することができていた。

また、ファシリテータの役割について、知識としての理解だけでなく、自身の経験に結び付け、より意義深く捉えている新規学ファシが多く、「研修で多くの人と話すことが楽しみだった」「ほかの学ファシから多くの刺激を得た」といった声が多く挙げられた。これは、春学期の完全オンライン化により、人との関係性が希薄になったことが影響したのではないかと考えられる。結果として、活動や対話を促進させるファシリテータの役割を、より深い感銘とともに理解することができたのではないかと感じる。昨年度とは状況は異なるものの、第12期でも同じくファシリテータの役割を体感的に学ぶ機会を提供したいと考えている。

課題として、合宿形式で研修を行っていた例年に比べ、継続学ファシと新規学ファシとの関係性はやや薄く、例年ほどの信頼関係構築には至っていない。その影響もあってか、第11期学ファシ応募締切時から春学期開始までの活動辞退者は18名(第10期活動辞退者：9名)だった。第12期では、例年以上に学ファシ同士の関係性構築に注力したい。

### ■第11期前半の総括

第11期独自の傾向として、例年以上に、個人での働きかけに注視し、その意識もコンテンツ部分に偏りがちな傾向にあると感じている。要因として、オンラインによる研修だったために、教職員からのレクチャーも一方的な知識注入型にならざるを得なかったこと、また、ブレイクアウトルーム機能を用いた他グループとは遮断された環境でのグループワークにより、グループ間での相互作用もなかったこと等が考えられる。第12期では、今まで以上に体験的に学ぶことを重視した研修を組み立てることで、プロセスや相互作用への働きかけの重要性を実感とともに理解してもらいたいと考えている。

## 2. FDに関する取組み

### 2-1.授業の見学

公開授業&ワークショップ 0件

(コロナ禍によるオンライン授業のため、学部による公開授業とワークショップの実施が少なかったため、参加が難しかった。)

### 2-2. 教育支援研究開発センター主催事業

学生×教員×職員しゃべり場「オンラインでオンライン授業を語ろう」

□日時：2020年7月29日(水)

□成果・課題

標記の学生×教員×職員しゃべり場運営の中で必要となるグループワークの際のファシリテーションを学ぶため、準備段階においてF工房スタッフから教育支援研究開発センター事務室高等教育担当スタッフに向けてファシリテーションの手法について研修を行った。

また、当日のしゃべり場において、5つのグループのうち、2つのグループのファシリテータをF工房スタッフ2名がそれぞれ受け持った。コロナ禍の中のオンライン授業について率直な意見が学生、教員、職員から発言され、特に学生からの意見がリアルに聞けたことは学ファシの活動支援に役立つものであった。

## 3. コンサルティング

■依頼件数：3件(のべ6回)

《プログラム種類別の内訳》

プログラム種類	件数
学内他部署との協働	0 (5)
授業の支援	3 (14)
課外活動の支援	0 (2)

※詳細は別紙「プログラム種類別の詳細」参照  
※件数は依頼者の担当プログラムおよび担当科目ベース

《支援内容別の内訳》 ( )は前年度実績

支援内容	回数
ワークショップ・授業の運営支援 (コンテンツ運営)	2 (18)
見学・フィードバック	3 (8)
ワークショップ・授業の設計支援 (助言・情報提供)	1 (12)

※依頼1件に対し複数の支援を同時に実施する場合は、  
ためのべ回数を記載(事前打合せ・ふりかえりは除く)  
※「自己発見と大学生活」は授業期間中、学ファシの派遣を  
通じて全クラスの運営支援に関わるため回数を出しづら  
いことから1回でカウント

■今年度の特徴的な取り組みと今後の課題

### 1) 経営学部「演習2」

一昨年度から継続して支援している。ゼミ生が「ディスカッションの力をつける」ことを目的に、「模擬的に話し合いを実施し、その過程をふりかえる」というプログラムを実施した。支援内容の詳細は、テーマについてディスカッションを行う様子を教員とF工房スタッフが観察した後、ディスカッションの進め方について「良かったこと・問題点・次に活かしたいこと」をグループで振り返り、教員とF工房スタッフからフィードバックを行うというものである。この流れを、テーマを変えて3コマ実施した。

なお、昨年度の支援では、F工房スタッフによるゼミの見学後、見学での様子をもとに今のゼ

ミ生に必要なディスカッションの工夫を1コマでレクチャーして実践する時間を取った。その時のゼミ生の反応が良く、手ごたえのある研修となったことから今回3コマに増やされた背景がある。しかしながら、F工房スタッフの体制が十分でないことから、今回は事前準備が必要ない当日のみの支援内容となった。

#### ■コンサルティング業務の総括

依頼件数は3件（のべ6回）であった。

#### 4. 学外での発表・講演

4-1. 学外への講師派遣：実施なし

4-2. 学外での発表

大学コンソーシアム京都第26回FDフォーラム ポスターセッション発表（オンライン開催）

□日時：2021年2月20日（土）

□成果・課題

今年度のFDフォーラムはオンラインで開催され、学ファシの有志メンバーによる「学生ファシリテータから見るコロナ禍におけるオンライン授業の満足度と授業運営のあり方の提案」というタイトルのポスター発表を行った。職員は学ファシとのミーティングに参加するなど、発表までのサポートを行った。当日の学ファシの発表はとてもわかりやすい説明で、他大学の参加者も学ファシ活動について、興味深く聞いてくれていた。また、FDフォーラムでの発表内容を後日、学ファシ全体に向けてオンラインで共有した。

#### <発表スライドの抜粋>

京都産業大学

学生ファシリテータから見る  
コロナ禍におけるオンライン授業の満足度と  
授業運営のあり方の提案

【京都産業大学 学生ファシリテータ】  
情報理工学部2年次 井ノ口留菜  
文化学部4年次 若林みお  
経営学部1年次 菅原 菜未  
【京都産業大学 教育支援研究開発センター】  
専任職員 岡 和寛  
F工房コーディネータ 清水 菜未

**背景**

2020年はコロナウイルスの爆発的な感染を受け、さまざまな事が急激に変化する年となった。大学の授業も例外ではなく、京都産業大学の春学期の授業は全てオンライン授業となり、我々が担当する「自己発見と大学生活」も**全クラスオンラインでの授業プログラム**を遂行した。

その中で、オンラインにも関わらず受講生からの満足度が高いクラスが出ていることが、例年行なっているアンケートで明らかになった。これを受け、我々は**満足度が高かった要因を明らかにし、学ファシがどのように関わればより良い授業を作れるのか提案**をするため、今回の調査を行なった。

**オンライン授業の良い点・悪い点**

**良い点:**

- 資料や授業の録画をいつでも見返すことができる
- 課題へのコメント返して一人一人に向き合うことができる

**悪い点:**

- カメラオフだと受講生の感情、モチベーションが読み取れない
- 人によってオンラインの知識に差がある
- クラス全体を見渡すことができず授業の進行具合が測りづらい

**本調査のまとめ**

**学ファシ・受講生を双方向から見た気づき**

- 受講生一人一人に目を向ける重要性
- 受講生はちゃんと学ファシをみている**学ファシの努力・工夫は満足度につながる**

**コロナ禍における学ファシの存在意義とは**

- 人との関わりがない中、学ファシは受講生にとって少ない先輩の一人
- 学ファシとの関わりは自分が大学生になったことを実感させてくれる
- 自分を見てくれている、考えてくれていることが直に感じられる存在

以上

【別紙】令和2年度 F工房によるコンサルティング実績：プログラム種類別の詳細

1) 学内他部署との協働 (0件) [前年度実績：5件]

2) 授業の支援 (3件) [前年度実績：14件]

共通教育科目

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学&FB	助言・情報提供	学ファン派遣	概要
4/6~7/23	自己発見と大学生活	初年次教育センター	15回×30クラス			○	全30クラス、15コマへの学ファン派遣、学ファン向け研修プログラムの設計支援・運営、春学期授業期間(4月~7月)における学ファンの活動支援
—	共通教育語学科目(英語)	共通教育推進機構			1		次年度の共通教育語学科目における対面授業について、コロナ対策をしつつペア/グループワークを行った際に想定される受講生の様子や学習効果について、F工房での実践から得られた知見を情報提供

学部専門科目

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学&FB	助言・情報提供	学ファン派遣	概要
12/4,12/11,12/18	演習2	経営学部	1	3			受講生に対し、ディスカッションの際に有効なファシリテーションスキルに関する観察とフィードバック

3) 課外活動の支援 (0件) [前年度実績：2件]